

／ 石川町までの交通アクセス ／

◎飛行機



◎電車



◎自動車



／ 問い合わせ先 ／

- いしかわ高校魅力化プロジェクトへの協力に関心のある方
- いしかわ高校魅力化プロジェクトに関心のある教育関係者の方

石川町役場

〒963-7893 福島県石川郡石川町字長久保 185-4 企画商工課  
tel/0247-26-2111(代) fax/0247-26-0360  
mail/ishikawa@junbishitsu.jp (石川町高校魅力化コーディネーター宛)



[town.ishikawa.fukushima.jp](http://town.ishikawa.fukushima.jp)

- 県立石川高等学校で学びたい中学生の保護者の方

福島県立石川高等学校

〒963-7845 福島県石川郡石川町字高田200-1  
tel/0247-26-1656 fax/0247-26-5918



[ishikawa-h.fcs.ed.jp](http://ishikawa-h.fcs.ed.jp)

\*このパンフレットは、令和5年2月時点の情報をもとに作成しています。  
\*このパンフレットの全てのコンテンツの無断転載をお断りいたします。

# FUKUSHIMA ISHIKAWA-MACHI



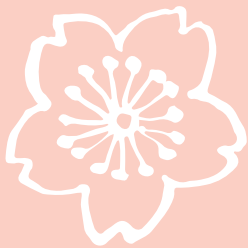
まちと学校がともに取り組むプロジェクト

福島県石川郡石川町





# 郡内唯一の公立高校存続のために まちと学校がともに取り組むプロジェクト



2023年に開校100年を迎え、石川郡内唯一の県立高校として地域の教育を担ってきた福島県立石川高等学校。しかし過疎化・少子高齢化の進行によって高校生の数は減少を続けており、令和6年度以降は段階的に各学年の学級数を1クラスに減らすことが予定されています。石川町では県立石川高校の存続が地域の担い手を育むことにも直結するものと考え、行政・地域・高校が一体となって高校の魅力を出していくため、2022年4月より「いしかわ高校魅力化プロジェクト」をスタートしました。



## 石川町 町長メッセージ



県立石川高校は1923年に福島県石川実科女学校として創立し、地域の子どもたちに学びの機会を届けてきました。近年は生徒数の減少が続いていますが、「いしかわWORK&LIFE 教育」を核に地域に密着したキャリア教育を推進するなど、県立石川高校が地域の担い手を育む役割を果たしていることに変わりはありません。高校生の将来に生きる学びを絶やさず届け、地域の活性化を実現していくことが町政として果たすべき役割と考え「いしかわ高校魅力化プロジェクト」をスタートしました。県立石川高校との連携を通して、この地域の未来を創ってまいります。

石川町長 塩田 金次郎

## ISHIKAWA-MACHI

石川町は、福島県の県中地域に位置する人口約14,000人の町です。阿武隈地域の豊かな自然に囲まれており、長い歴史と伝統を継承しながら石川地方の中心都市として発展してきました。周囲に位置する玉川村、平田村、浅川町、古殿町とともに石川郡を形成しており、県立石川高校に通う高校生の約8割は石川郡内から通学しています。いしかわ高校魅力化プロジェクトでは、石川町だけでなく石川郡内全体で課題感を共有しながら県立石川高校の高校生たちを見守っていく体制を作ることで、地域を舞台にしたさまざまな学びを通して高校生が自分自身の可能性を広げるとともに、地域の担い手として育まれていくことをめざしています。





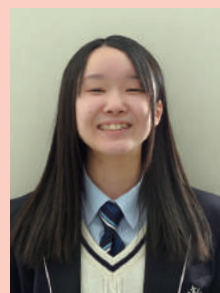
## 地域に根ざした学びのなかで過ごす3年間

### 地域創造探究

石川町は少子高齢化の進む過疎地域として、さまざまな課題に直面しています。「地域創造探究」では地域の課題を教材としてとらえ、高校生の社会との接点づくりや地域理解へつなげることを目的に授業を行っています。1年生では石川町内のまち歩きや地域の方々へ話を聞く機会を通して、地域を知ることからスタート。2年生以降は自身が関心を持つテーマに分かれプロジェクトを立ち上げます。地域での実践的な活動を通して、自分自身が将来この地域・社会にどのように関わっていきたいのか考えを深めていきます。

学びのKeyword **総合的な探究の時間**

2022年度から高等学校のカリキュラムに導入された教科で、自己の在り方・生き方と切り離せない課題を、高校生自らが発見・解決していくことを目標としています。県立石川高校の「地域創造探究」は総合的な探究の時間に行っており、地域課題・資源をテーマに探究活動を進めています。



水野 愛架さん 1年生

探究の時間には自分の考えを発表する機会がたくさんあります。自分とは異なるいろいろな考え方に触れられるのは面白く、他者との関わりは大切だと思うようになりました。



大石 修吾さん 2年生

地域の特産品を使った商品開発に取り組みました。オータムフェスタに出店した際、試食した地域の方々から商品の改良につながる声を直接いただいたことが印象に残っています。

県立石川高校では以前より「いしかわWORK&LIFE教育」として、石川町のまちづくりに関する活動や町内の事業所での職業体験などを行ってきました。さらに今後は、高校生が思い思いに過ごすことのできる地域のなかの居場所づくりや、地域と学校の協働体制づくり、教員をはじめとしたプロジェクト関係者の研修実施にも取り組んでいく予定です。ここでは、いしかわ高校魅力化プロジェクトの初年度から魅力化に着手している「いしかわWORK&LIFE教育」について紹介します。

### キャリアチャレンジ

働くことの意味や社会人としてのマナーを学ぶことを目的に、学校設定教科「キャリアステップI・II」を受講する2・3年生が週に一度、町内の事業所で実習（インターンシップ）に取り組みます。2年間に渡って行われる事業所実習は他校でもあまり例のない珍しい教科ですが、県立石川高校では地域企業の協力のもと平成28年度から実施しています。実習先は役場や幼稚園、介護施設、工務店、商店など多岐にわたり、2年生は前期・後期に各1社、3年生は1年間を通じて1社で実習を行います。

学びのKeyword **デュアルシステム**

ドイツを発祥とする、学校教育と職業訓練を同時に受けることのできる教育システム。県立石川高校では、地域企業・石川町と連携し、就職希望の生徒が2年間に渡ってデュアルシステムを実践しています。インターンシップ先への就職を目的とせず「人を育てる」ことに主眼を置いていることが特徴です。



根本 莉子さん 2年生

【実習先】前期：石川町役場/後期：ユキ美容室

美容室ではお客さんによって対応内容が異なり、慣れるまで大変でした。ブライダルのヘアメイクアーティストをめざしており、接客業の楽しさや大変さを学べたことは大きかったです。



株式会社 お菓子のさかい  
酒井 秀樹さん

学校の授業とは異なり、キャリアチャレンジでは「体験」を通じて知識や経験を獲得することを高校生に味わってもらいたいと思っています。県立石川高校は地域の宝であり、教育という文化を作ってきた学校です。県立石川高校に未長く存続して欲しいという思いで、実習の受け入れを続けています。



## いしかわ高校魅力化プロジェクトに関わる方々からのメッセージ プロジェクトに寄せる期待・高校生の変化

福島県立石川高等学校 校長

櫻井 克彦 さん



生徒たちは地域と連携した取り組みのなかで自身の存在意義を感じ、成功する喜びを知り、人として大きく成長しています。本プロジェクトによって生まれる多様な出会いは、生徒にとって財産です。また就職予定の生徒の多くは地元での就職を希望します。そのため石川郡の地域に根ざし支えていくことは、本校の使命と考えています。学校外の力もお借りしながら、生徒一人ひとりにさらなる成長の機会を届けていくことができると考えています。

石川町企画商工課 課長

佐藤 康博 さん



町にとって教育は重要で、失ってはならないものです。県立石川高校は現段階では統廃合の対象に含まれていませんが、各学年の1クラス化が決定しており地域の公立高校がなくなることへの危機意識は続いています。石川郡域の教育の受け皿として役割を果たす県立石川高校が地域の子どもたちにより選ばれる学校になるために、地域に根ざした学びを発展させようとしている本プロジェクトを、町としてサポートしていきたいと思えます。

福島県立石川高等学校 教員 地域連携推進主任

齋藤 陽介 さん



キャリアチャレンジを履修する生徒の進路意識は高く、企業の方々からも「しっかりしている」と声をいただいています。また1年生の探究には外部講師にたくさん来ていただき、生徒たちに聴く姿勢が身についたと感じています。プロジェクトが始まって1年経ち、学校が外に対して開かれた感覚もあります。現場に足を運ぶ実体験を通して地域や社会の課題を知り、生徒たちが自分ごととして考える機会をどんどん増やしていきたいです。

大正大学 地域創生学部 地域創生学科 教授

浦崎 太郎 さん



このほど本格導入された学習指導要領では「自分らしく、高い専門性を発揮して社会に参加する」力をつける教育への転換をすべての高校に対して求めています。それを具現化するには、一人ひとりを大切にできる小さな学校の方が有利でしょうし、心にスイッチが入る機会や授業で身につけた力を試せる場と豊富につながれる地域の方がよいでしょう。これらの条件や力量あるスタッフが揃っているのがいしかわ高校魅力化プロジェクト。ぜひ応援したいと思います。

## 高校と地域を結ぶ 魅力化コーディネーター

いしかわ高校魅力化プロジェクトには、  
高校と地域を結ぶ役割を担う魅力化コーディネーターが配置されています。  
コーディネーターの役割などについて、2022年4月のプロジェクト開始とともに着任した  
増成さんに話を聞きました。



増成 育恵 ますなり いくえ

1986年新潟県生まれ。亜細亜大学経営学部ホスピタリティ専攻卒業。製造会社で営業を経験、2015年4月から玉川村地域おこし協力隊として着任するため福島県へ移住。任期満了後、玉川村観光物産協会を経て2022年4月より、一般社団法人未来の準備室へ入社し、現在に至る。また、豊国酒造(古殿町)kuranoba管理人としても従事。

魅力化コーディネーターとして担っている主な役割を教えてください。

1・2年生の地域創造探究の授業運営を先生方と一緒に進めており、授業内容を考えることや、高校生の探究活動をサポートいただく地域の方々との調整などを担当しています。まちのリビングプロジェクト(※)の活動をお手伝いすることもありますね。今後は中学生向けの学校説明会の実施や、高校生の地域活動に協力いただける地域の方々との輪を石川町から石川郡全体に広げていくための準備を進めていく予定です。

※県立石川高校と学法石川高校の高校生が参加する、石川町主導の高校生プロジェクト

魅力化コーディネーターになった理由は何だったのでしょうか。

私自身が地元には何も無いと思って地域外に出てしまったタイプだったので、社会に出る直前のタイミングにいる高校生に対して、この地域のことを知る機会を作りに挑戦したいと思ったからです。石川郡は3町2村それぞれに、住む人や環境などまちのカラーに違いがあり魅力を感じています。だからこそ、子どもたちには生まれ育った場所の紹介を楽しそうに話せるようになってほしいなと思っています。

魅力化コーディネーターとしての、今後の目標を教えてください。

石川町だけでなく「石川郡」といった広域で子どもたちを見守っていきけるような体制を作っていきたいと考えています。県立石川高校には石川郡出身の生徒が多いので、今後彼らが自分の育った町や村で探究活動に取り組みたいと思った時に、すぐに地域の方々へ接続できるような状態にしておきたい。地域おこし協力隊として活動していた頃から石川郡全体を盛り上げるようなことができると考えていたので、実現に向けて頑張っていきたいです。



一般社団法人 未来の準備室 について

福島県白河市を拠点に、高等教育機関のない地域の課題解決に向けて2015年に事業を開始。コミュニティ・カフェ EMANON(白河市)での実践・研究を核に、キャリア教育やまちづくり、地方創生などの分野で事業を行う。2022年度より、福島県立石川高等学校高校魅力化推進事業を受託。

〒961-0905 福島県白河市本町9(コミュニティ・カフェ EMANON 内) tel / 0248-57-4067  
ホームページ / <https://junbishitsu.jp> 理事長 / 青砥 和希